

# 流暢性障害に対する一般的な人および専門家の態度に関するグローバルな視点

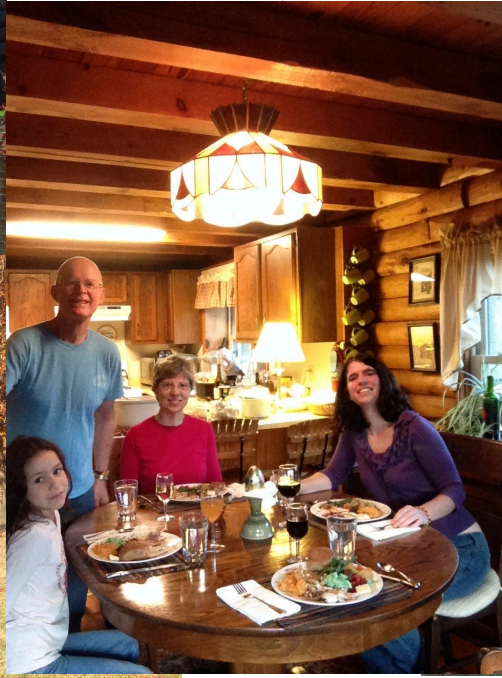
日本吃音・流暢性障害学会第11回大会

2023年10月21日

Kenneth O. St. Louis  
ウェストバージニア大学

# はじめに、少し私のことについて

## ◎ モーガンタウン, WV

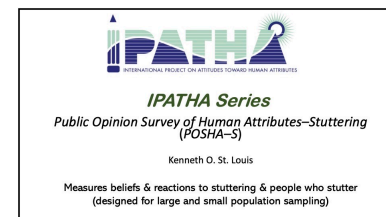
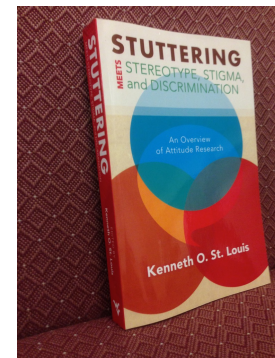


- ◎ 金銭面
  - 複数の尺度 (POSHA-Sなど) の著作権を持つポピュローレ出版社の共同経営者
  - 『吃音はステレオタイプ、スティグマ、差別と出会う: 2015年にWVU Pressより出版された態度研究の概要』という本の編集者/著者
  - 本の印税はごくわずか
  - [www.teacherspayteachers.com](http://www.teacherspayteachers.com)にて販売されている

## 調査機器の数々

- 現在までの著作権使用料は限定的

- ◎ 非金銭面
  - メアリー・ワイドナーと私はPOSHA-S/Child の共同執筆者である
  - メアリー・ワイドナーはInterACT programの開発者である
- ◎ 専門用語 (私は厳密に人第一言語を使用するわけではない)



## このプレゼンテーションでは、以下 を取り上げる

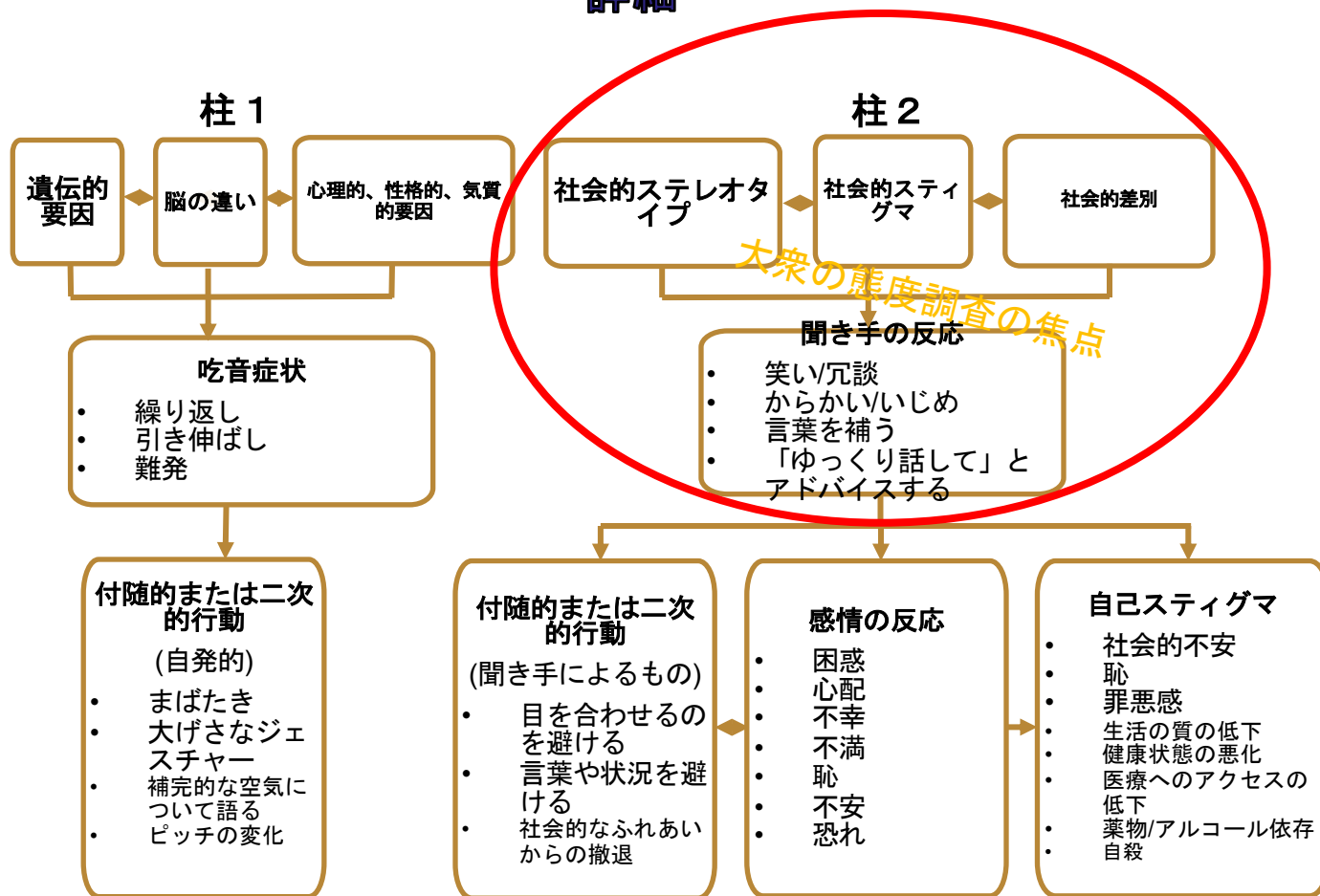
- ◎ 吃音の二本柱概念
- ◎ 大衆の態度を調査する根拠
- ◎ 大人と子供の大衆の態度について私たちは何を知っていて何を知らないのか
- ◎ 吃音の態度の国際的な違いと予測因子
- ◎ 態度の変化について私たちは何を学んだのか(新しい結果を含めて)
- ◎ いくつかの臨床的意味合い



## 吃音の問題に関する二つの柱による概念化



## 詳細



**大衆の態度は、ステレオタイプ、スティグマ、差別を引き起こす可能性がある**

- ステレオタイプ: 個人を分類し、世界を理解するための近道、学習された知識構造
- ポジティブ
- ネガティブ (例: 偏見)
- ◎ スティグマ: “汚名化されたアイデンティティ”; ネガティブな結果を招く「マーク」
  - 公的スティグマ: 社会で広く受け入れられている
  - セルフスティグマ: 烙印の押された個人に受け入れられている
- ◎ 差別: ステレオタイプ化され、汚名を着せられた人々に対して取られる行動(しばしば違法行為)

- 意見
- 信念
- 反応
- 認識
- 知識
- 社会的距離

- 意識
- 役割の閉塞感
- 共感
- 考え
- 志向性
- その他



# 社会の柱を探る

## ◎ IPATHAの取り組み (1999–now)

## ◎ 2つの質問

- 一般人の吃音に対する態度は、各国で異なるのか？
- 吃音に対する態度は変えられるのか？



## ◎ 開発された調査方法

- ・始まりは吃音に関する世論調査: POSHA-S
- ・世界全体の吃音に関する世論(態度)を測定するための尺度: POSHA-S/小児版
- ・吃音の臨床版: Appraisal of the Stuttering Environment (ASE)
- ・後に他の疾患用も追加された: クラタリング (POSHA-CI)、肥満 (POSHA-Ob)、精神疾患 (POSHA-MI)
- ・吃音支援に関する個人的評価: (PASS)
- ・測定器、自動分析Excelワークブック、ユーザーガイドのダウンロード [www.teacherspayteachers.com](http://www.teacherspayteachers.com)

# 調査方法の構成

- 人口統計
- 吃音
- 要素
  - 肥満
  - 精神疾患
  - 左利き
  - 知能
- *POSHA–S/Child Anchors*
  - 肥満
  - 車いすの使用





# 心からの感謝

～300人のIPATHAパートナーの方々  
へ～







INTERNATIONAL PROJECT ON ATTITUDES TOWARD HUMAN ATTRIBUTES

| 現時,我對以下各方面的評價是 |   | 十分差 | 差 | 普通 | 好 | 十分好 | 不確定 |
|----------------|---|-----|---|----|---|-----|-----|
| 我的身體健康狀態       | 1 | 2   | 3 | 4  | 5 | ?   |     |
| 我的心理健康狀態       | 1 | 2   | 3 | 4  | 5 | ?   |     |
| 我學習新事物的能力      | 1 | 2   | 3 | 4  | 5 | ?   |     |
| 我說話的能力         | 1 | 2   | 3 | 4  | 5 | ?   |     |

| 對我而言,我生活中以下各方面的優先性為: |   | 從不重要 | 不常是重要的 | 同樣重要或不重要 | 常常是重要的 | 經常是重要的 | 不確定 |
|----------------------|---|------|--------|----------|--------|--------|-----|
| 感到安全 / 有安全感          | 1 | 2    | 3      | 4        | 5      | ?      |     |
| 自由地去做自己想做的事          | 1 | 2    | 3      | 4        | 5      | ?      |     |
| 花時間去安靜地獨處            | 1 | 2    | 3      | 4        | 5      | ?      |     |
| 參與派對或社交活動            | 1 | 2    | 3      | 4        | 5      | ?      |     |
| 想像新事物                | 1 | 2    | 3      | 4        | 5      | ?      |     |



代わりに、協力者はPOSHA-Sを無償で使用・翻訳で

## その他の基本情報

### ◎ 標準得点のルール

- 項目 → 要素 → 部分得点 → 総合吃音得点[他, クラタリングなど] (OSS)
- 平均値を-100～+100に変換
- いくつかの項目の得点は反転。
- 高いほど良い態度、低いほど悪い態度

### ◎ POSHA-S 世界のデータベース

- 23,500人の回答者、230サンプル、11地域/大陸、51カ国、32言語～55サンプル、回答者～3300人、それぞれ事前・事後比較あり(介入と信頼性・コントロール)

#### ▪ 他の POSHA

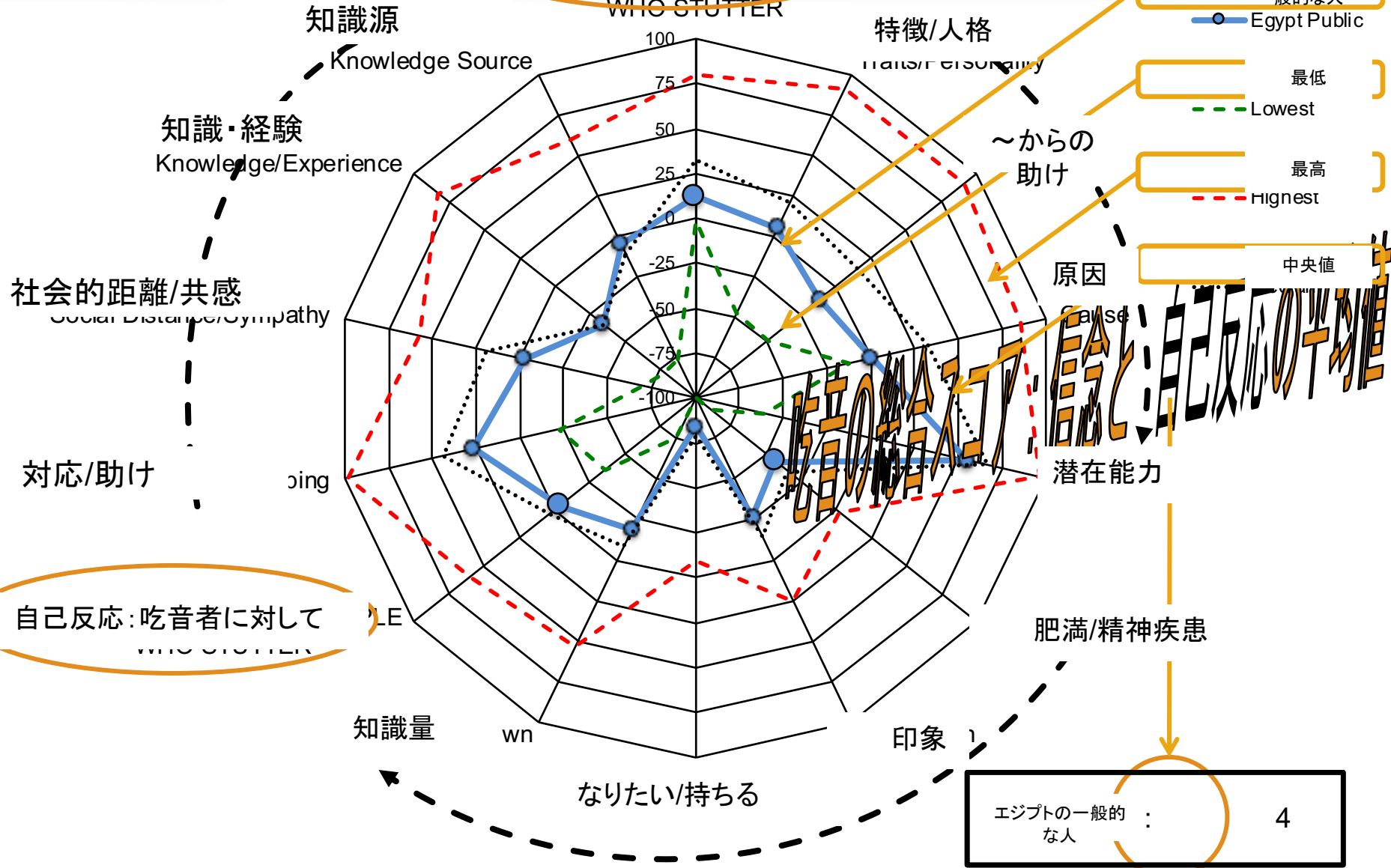
および ASE世界のデータベースは小規模



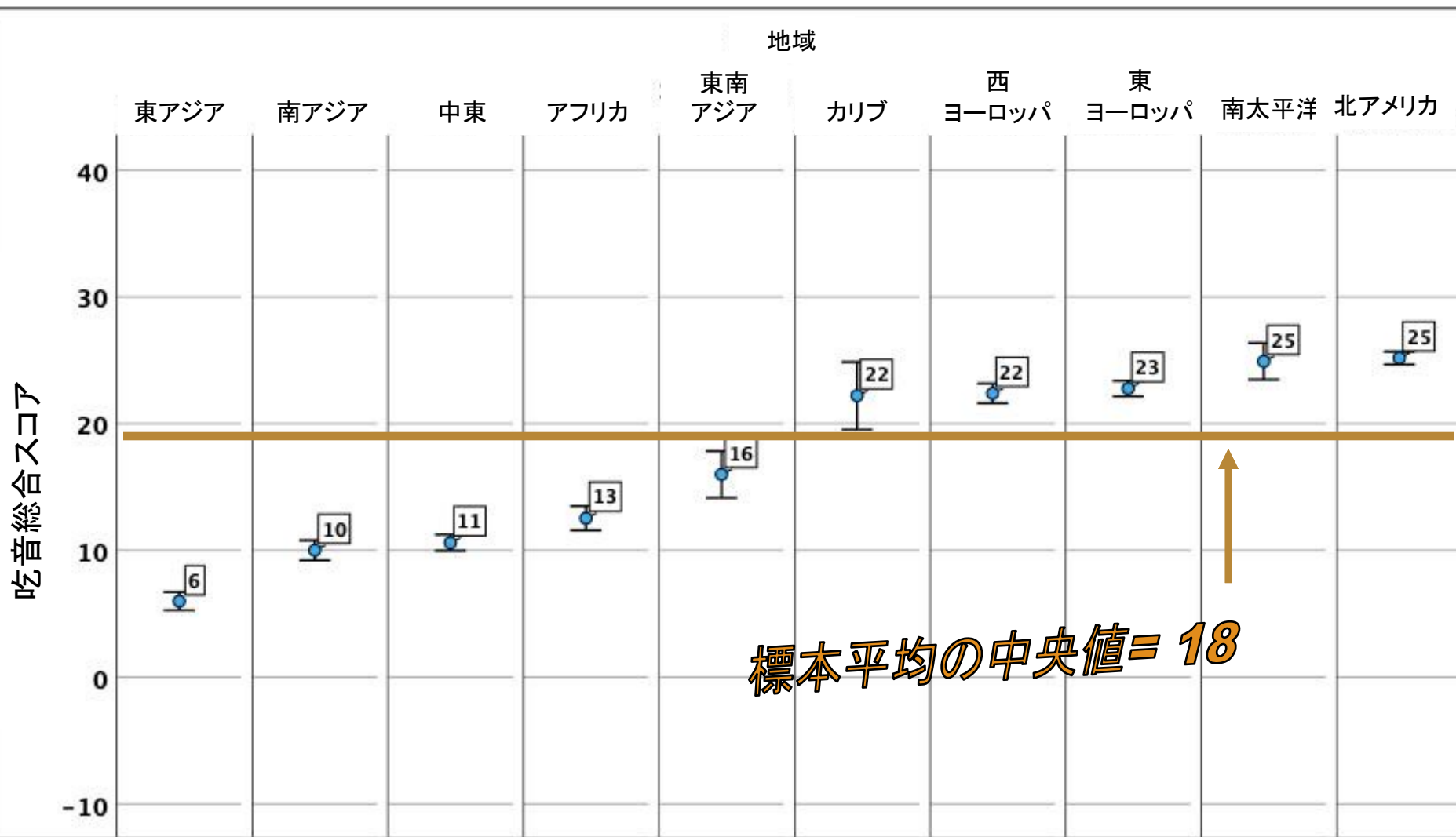
# POSHA-S 分析結果の概略



信念:吃音者について

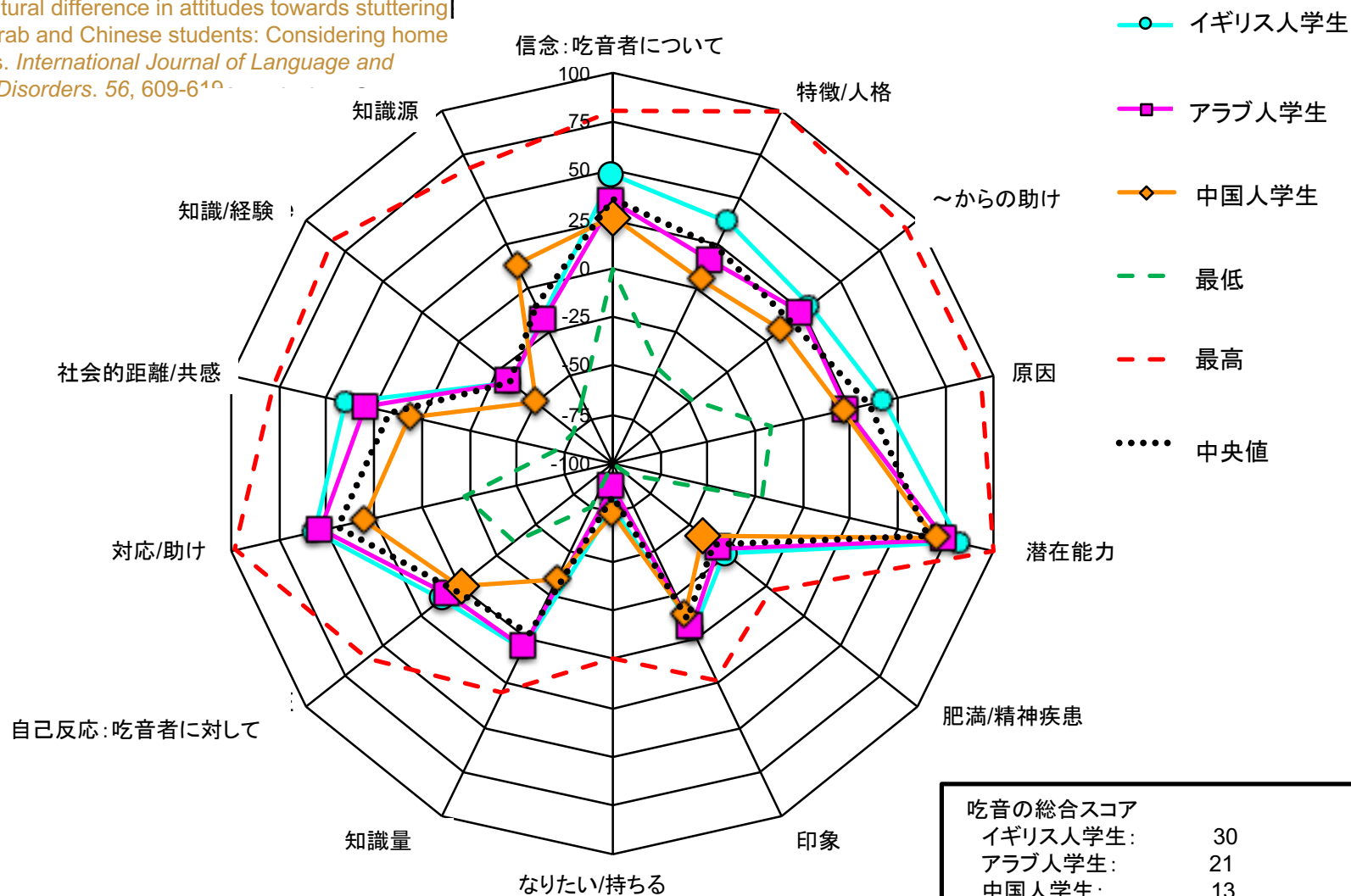


# 地域別吃音総合スコア

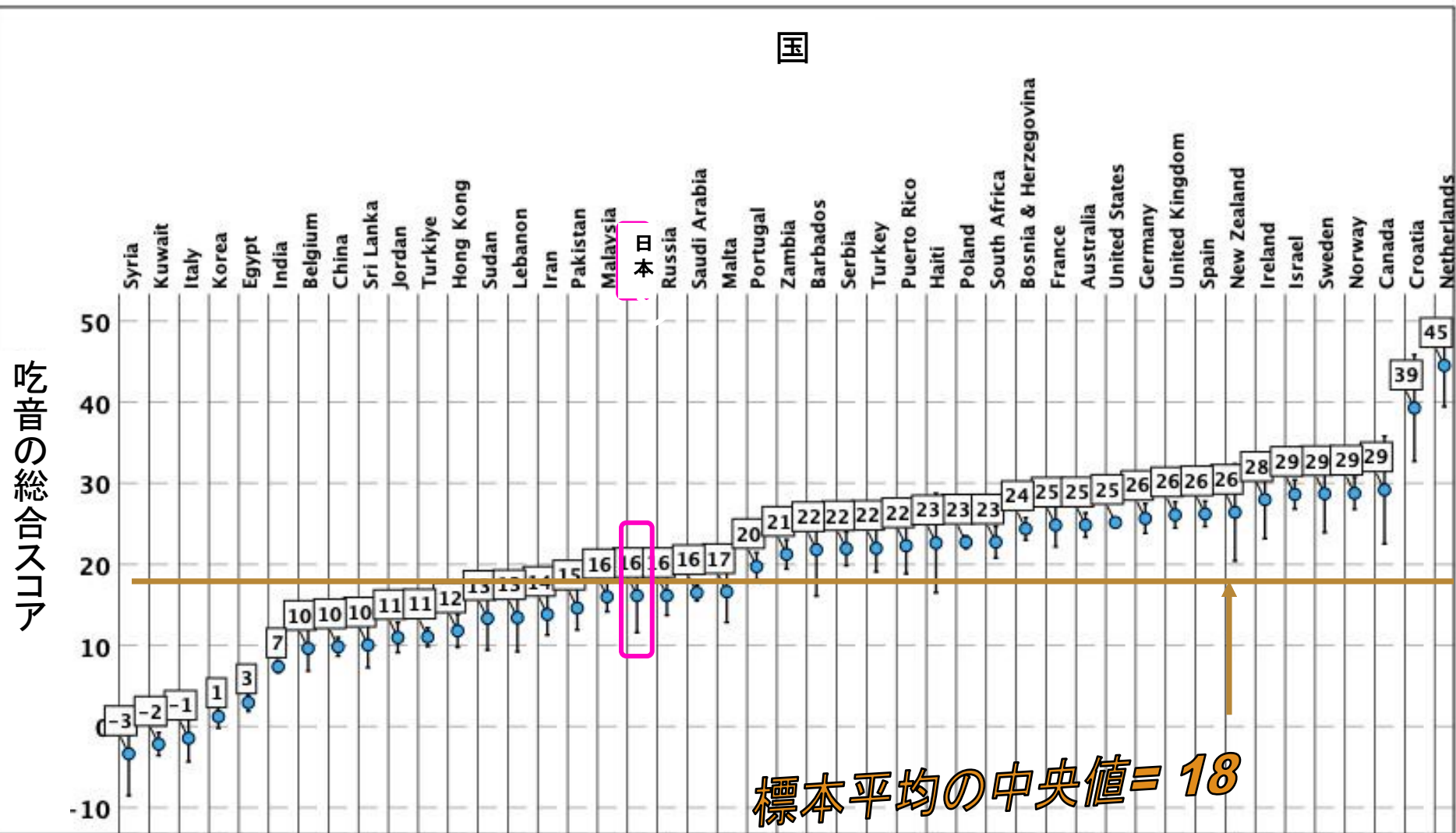


# 学生の態度、ベストからワーストまで: イギリス人、アラブ人、中国人

Üstün-Yavuz, M. S., Warmington, M., Gerlach, H., & St. Louis, K. O. (2021). Cultural difference in attitudes towards stuttering among British, Arab and Chinese students: Considering home and host cultures. *International Journal of Language and Communication Disorders*. 56, 609-619.



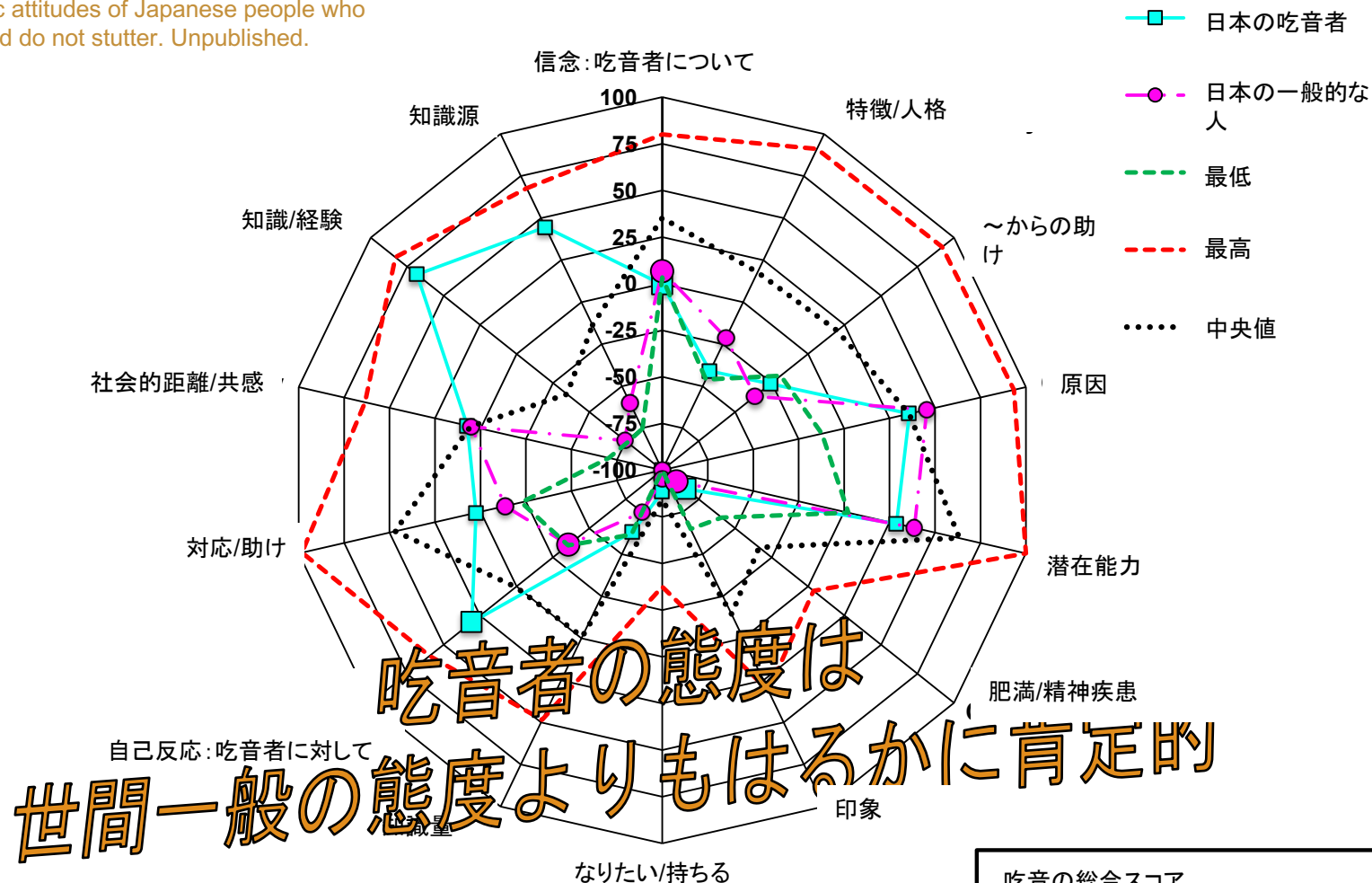
# 国別吃音総合スコア





# 日本国民と吃音者

Kawai, N. & St. Louis, K. O. (2015).  
Public attitudes of Japanese people who  
do and do not stutter. Unpublished.



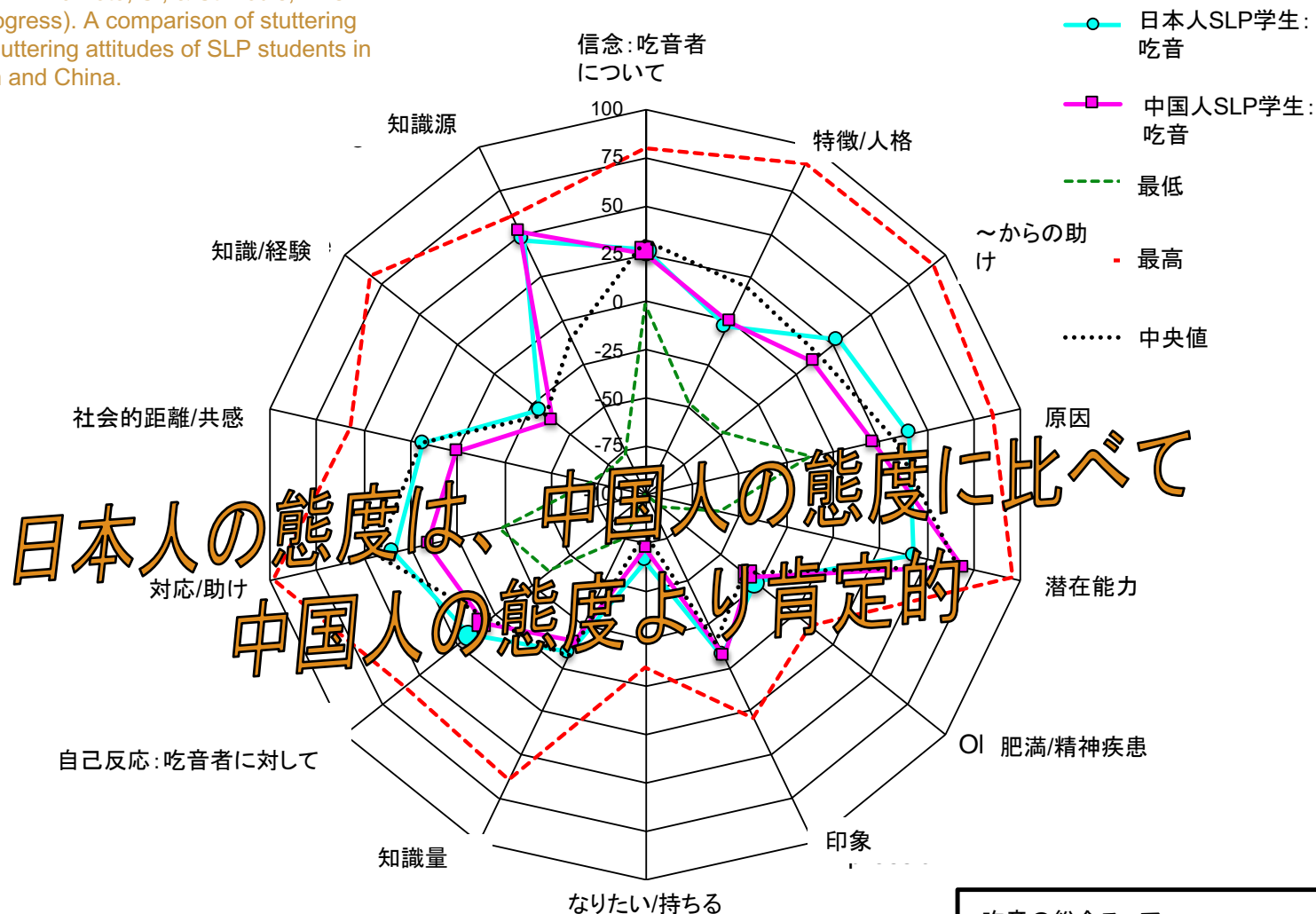
吃音者の態度は  
世間一般の態度よりもはるかに肯定的

|          |     |
|----------|-----|
| 吃音の総合スコア |     |
| 日本の吃音者   | 15  |
| 日本国民     | -15 |



# 日本と中国におけるSLP学生の 吃音意識

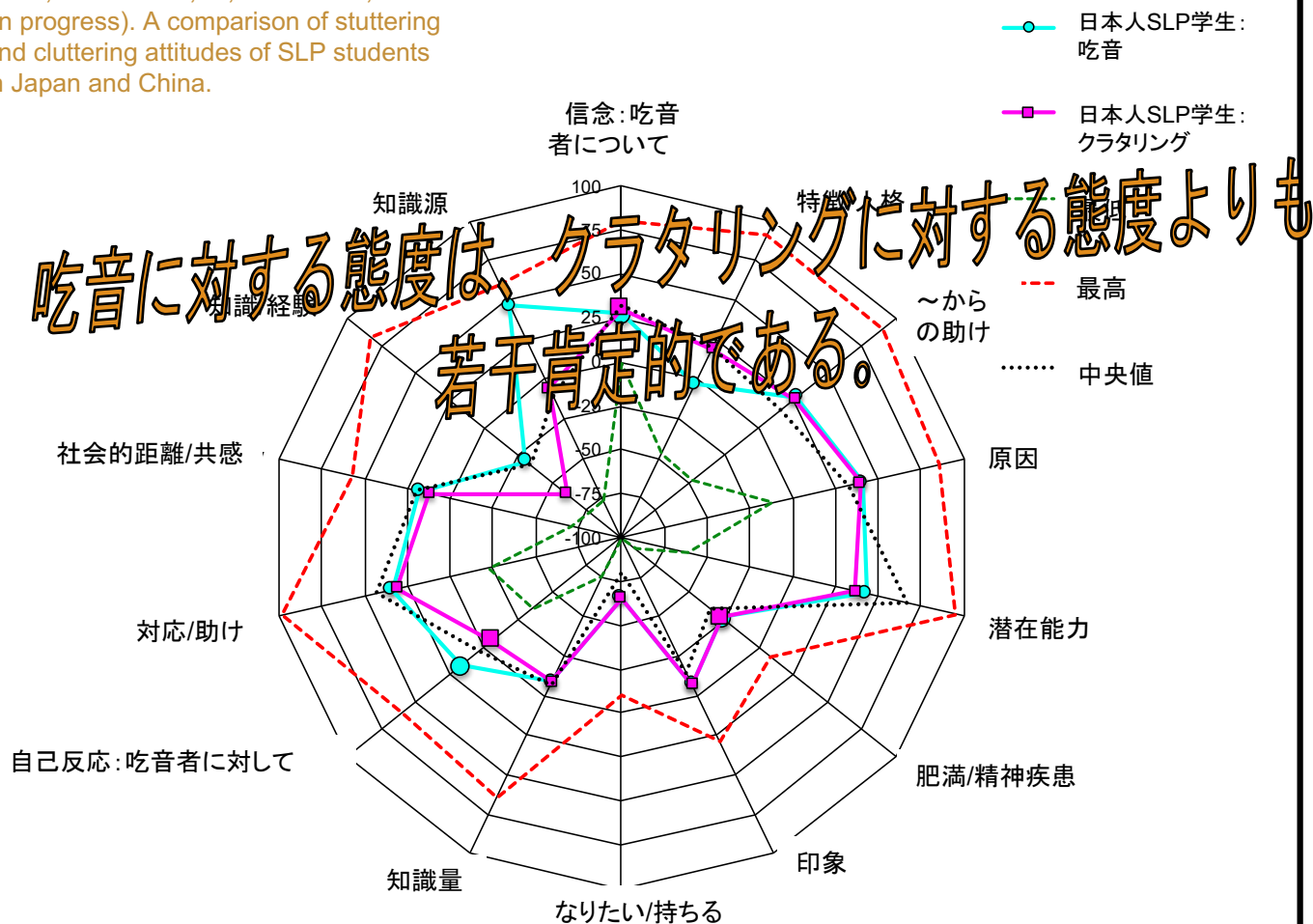
Chen, Y. Miamoto, S., & St. Louis, K. O.  
(in progress). A comparison of stuttering  
and cluttering attitudes of SLP students in  
Japan and China.



吃音の総合スコア  
日本人SLP学生 22  
中国人SLP学生 16

# 日本におけるSLP学生の 吃音意識とクラタリング意識

Chen, Y. Miamoto, S., & St. Louis, K. O.  
(in progress). A comparison of stuttering  
and cluttering attitudes of SLP students  
in Japan and China.



吃音とクラタリングの総合スコア  
日本人SLP学生(吃音) 22  
日本人SLP学生(クラタリング) 12

## サンプル比較による一般的な結果

- ◎ ステレオタイプとスティグマは、最も肯定的なものであっても、すべてのサンプルに存在する。
- ◎ 世間一般の態度は、以下によって影響されない。
  - 異なる言語の翻訳
  - 吃音の筆記定義または聴覚モデル
- ◎ 吃音に関する世間一般の態度に見られる重要な違い
  - 国、大陸、地域、ナショナル・アイデンティティ
    - しかし、国内ではもっと似ている
  - 教育水準とその他の社会経済的な要因
  - 確率的サンプルと便宜的サンプル
  - 選択された研究分野または職業（例：SLP、ただし教職は除く）
  - 吃音またはその他の特性に関する経験のある方
  - その他の要因（例：男性対女性）が不明確



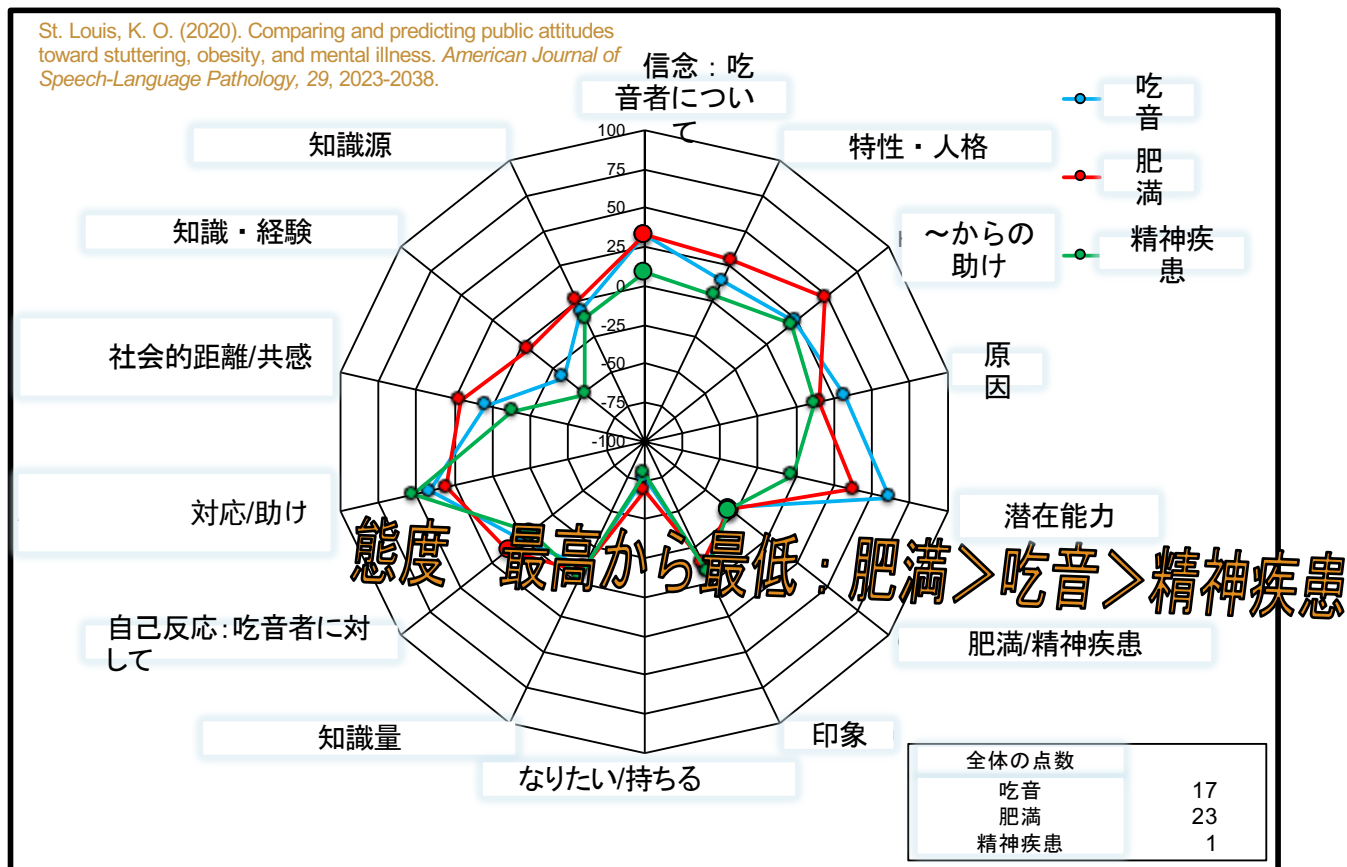
# 吃音に対する肯定的態度の 多寡の予測

- ◎ 22,000人以上を対象とした最近の調査
- ◎ 37の人口統計学のおよびその他の変数の予測可能性を決定
  - 強さの尺度としてR<sup>2</sup>乗(または分散説明率)を使用
  - OSS、信念、自己リアクションのために決定
    - OSS:0%から18%(次のスライド)
    - 信念 0%から22%。
    - 自己反応 0%から9
  - 通常、信念と自己反応の予測因子は異なる
    - 例:吃音者だと知られている、または吃音の印象は自己反応では%~12%だが、信念では0.4%~1%である。
    - 例:地域、国、言語 では、信念は17%~22%だが、自己反応は5%~9%。

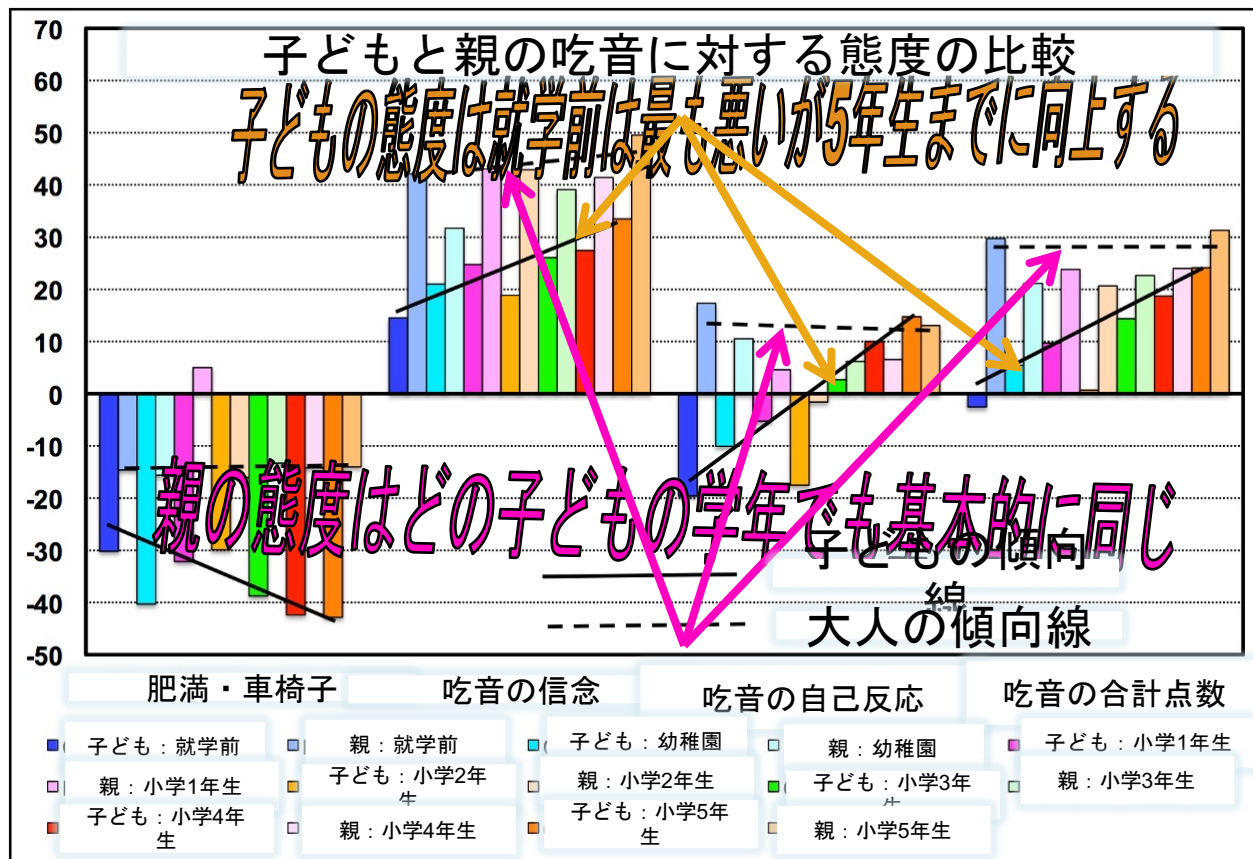
|                  |         |       |                            |          |      |
|------------------|---------|-------|----------------------------|----------|------|
| 国                | 強い予測    | 18.8% | 優先: ひとりで静かに過ごす             | 少しの予測    | 0.7% |
| 言語               | 強い予測    | 16.8% | 優先: 大きな問題を解決する             | 少しの予測    | 0.7% |
| 地域               | 強い予測    | 12.3% | 身体の健康                      | 少しの予測    | 0.6% |
| 吃音: 印象/なりたい      | かなり強い予測 | 8.4%  | 優先: 新しいことを想像する             | 少しの予測    | 0.6% |
| 人口               | かなり強い予測 | 5.6%  | 優先: 物事をなし遂げる               | 少しの予測    | 0.6% |
| 精神疾患: 印象/なりたい    | かなりの予測  | 3.9%  | 精神疾患: 自己のアイデンティティ          | 少しの予測    | 0.6% |
| 吃音の知り合い          | かなりの予測  | 3.7%  | 優先: 自分の仕事や義務を果たす           | 少しの予測    | 0.5% |
| 左利き: 印象/なりたい     | かなりの予測  | 2.9%  | 性別                         | 少しの予測    | 0.5% |
| 学ぶ能力             | かなりの予測  | 2.3%  | 結婚した                       | 少しの予測    | 0.5% |
| 教育               | かなりの予測  | 2.0%  | こころの健康                     | とても少しの予測 | 0.4% |
| 話す能力             | かなりの予測  | 2.0%  | 肥満: 自己のアイデンティティ            | とても少しの予測 | 0.4% |
| 知能: 自己のアイデンティティ  | 疑わしい予測  | 1.7%  | 相対所得                       | とても少しの予測 | 0.3% |
| 優先: 不幸な人を助ける     | 疑わしい予測  | 1.1%  | 知能: 印象/なりたい                | とても少しの予測 | 0.2% |
| 肥満: 印象/なりたい      | 疑わしい予測  | 1.0%  | 親                          | とても少しの予測 | 0.2% |
| 優先: やりたいことを自由にやる | 少しの予測   | 0.9%  | 年齢                         | とても少しの予測 | 0.1% |
| 吃音: 自己のアイデンティティ  | 少しの予測   | 0.9%  | 優先: 潜在的に「危険」を伴うが、刺激的なことをする | とても少しの予測 | 0.1% |
| 優先: 自分の信条を实践する   | 少しの予測   | 0.8%  | 左利き: 自己のアイデンティティ           | とても少しの予測 | 0.1% |
| 優先: 安全と安心感       | 少しの予測   | 0.7%  | 優先: パーティーや社交活動に参加する        | 予測なし     | 0.0% |
|                  |         |       | 優先: お金を稼ぐ                  | 予測なし     | 0.0% |

# POSHA-S, POSHA-Ob & POSHA-MI (n = 500)

St. Louis, K. O. (2020). Comparing and predicting public attitudes toward stuttering, obesity, and mental illness. *American Journal of Speech-Language Pathology*, 29, 2023-2038.



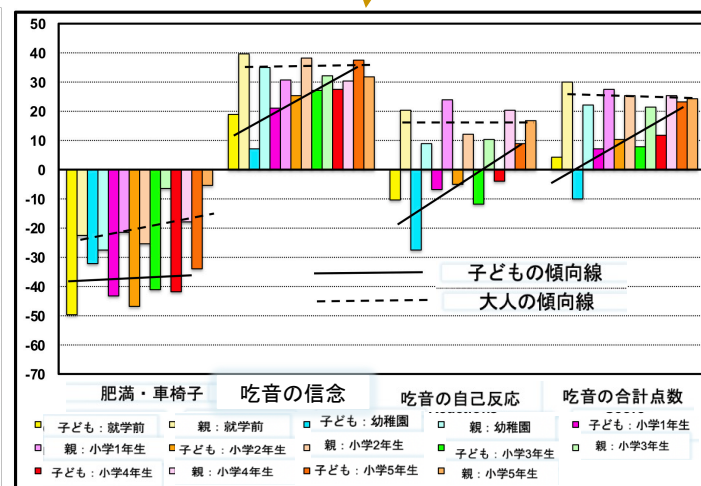
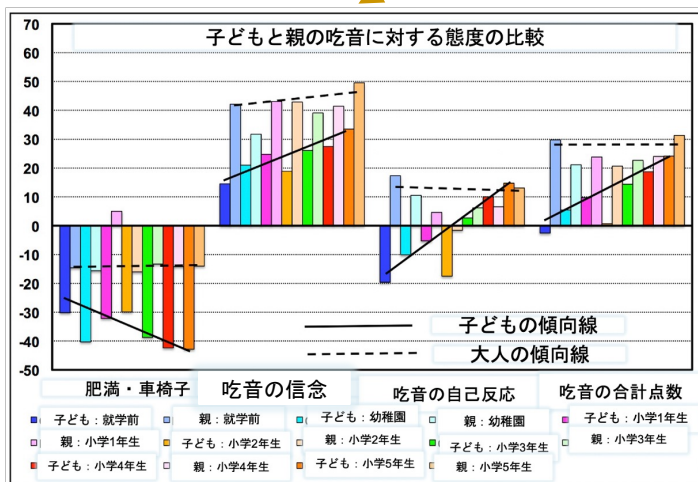
# 子どもの態度VS大人の態度：就学前～小学5年生



# 子どもの態度VS大人の態度:就 学前ー小学5年生 (アメリカ)& 幼稚園生ー小学6年生(ボスニ ア ヘルツェゴビナ)

Glover, H. L., St. Louis, K. O., & Weidner, M. E. (2019). Comparing stuttering attitudes of preschool through 5<sup>th</sup> grade children and their parents in a predominately rural Appalachian sample. *Journal of Fluency Disorders*, 59, 64-79.

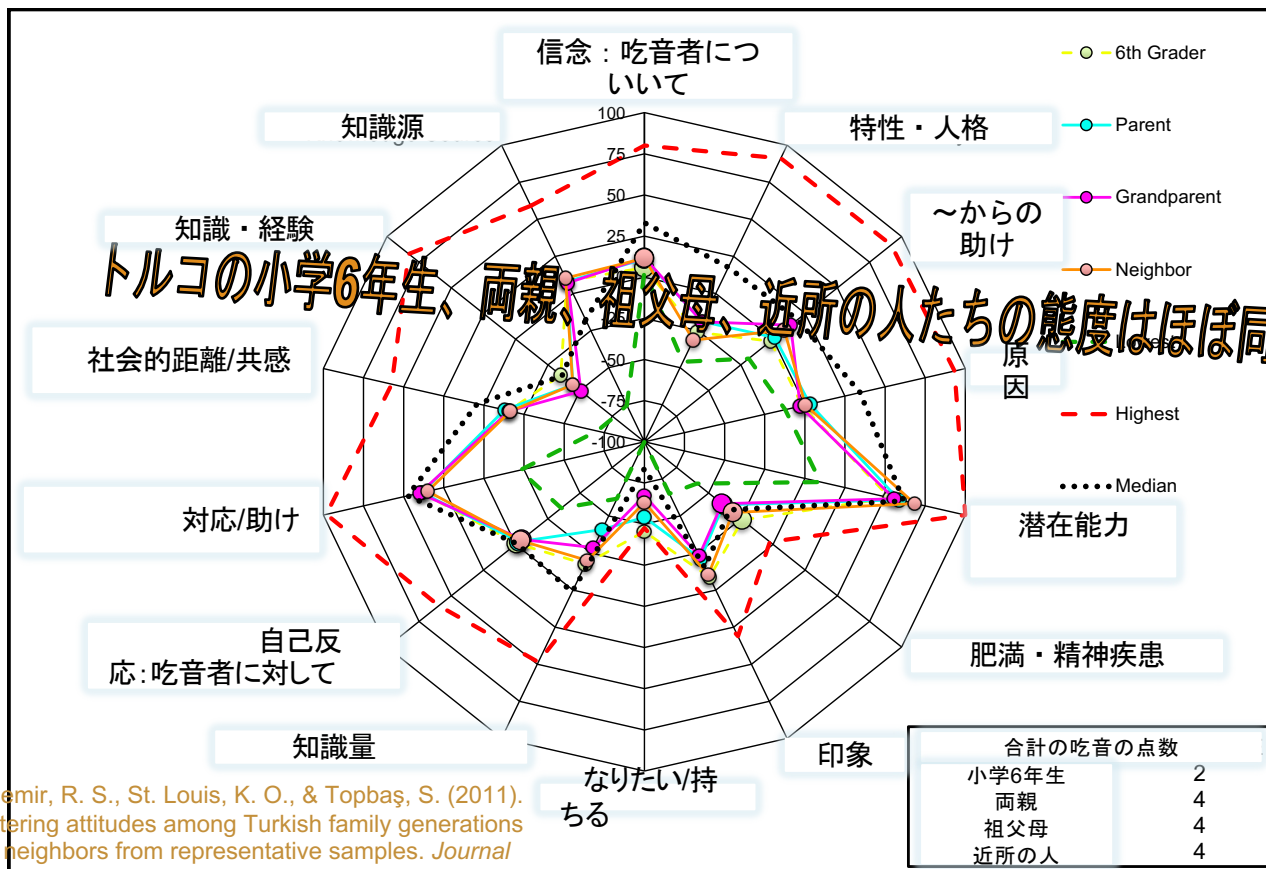
Weidner, M. E., Junuzović-Žunić, L., & St. Louis, K. O. (2020). A comparison of stuttering attitudes among nonstuttering children and parents in Bosnia & Herzegovina. *Clinical Archives of Communication Disorders*, 5, 42-53.



両国ともとても似ている



# どのように吃音に対する否定的な態度は育つのか？



Özdemir, R. S., St. Louis, K. O., & Topbaş, S. (2011). Stuttering attitudes among Turkish family generations and neighbors from representative samples. *Journal of Fluency Disorders*, 36, 318-333.

## 世間の態度を良くするためにたくさんの介入が試された

- ◎ 介入の種類: たくさんの組み合わせ
  - ビデオ(商業目的および特注のもの)
  - 印刷物
  - 口頭のプレゼンテーション: インフォーマル、レクチャー、ディスカッション
- ◎ 吃音に関する内容
  - 定義・症状、原因、感情、吃音のある人との関わり方など
  - 早期の研究: OSSsは10項目改善された
- ◎ St. Louis & Flynn (2015): 7年前の高校生の大幅な態度改善は概ね維持された

# ワイドナーのインターアクトプログラム

## ◎ 未就学児への、人形を用いたグループ介入

POSHA-S/Child OSS 結果: 介入前 = 3: 介入後 = 15



Weidner, M. E., St. Louis, K. O., & Glover, H. L (2018). 非吃音の就学前児童の吃音に対する態度を変える。アメリカ言語病理学雑誌, 27, 1445-1457

## 29の介入サンプルから得られた成功の結果

- ◎ St.Louisら(2020): 青年と成人を対象とした29の介入サンプル
  - 平均OSS改善度=9.4単位; 範囲=-1(悪化)~28単位
  - 人口統計学的変数は、成功を予測しなかった
- ◎ 介入の特徴には、予測可能性があった
  - 高い関心または関与(例: ユーモア、吃音者との交流)
    - 感情的なつながり
    - 吃音に関する重要な情報(ただし、多すぎないこと)

St. Louis, K. O., Węsierska, K., Przepiórka, A., Błachnio, A., Beucher, C., Abdalla, F., Flynn, T., Reichel, I., Beste-Guldborg, A., Junuzović-Žunić, L., Gottwald, S., Hartley, J., Eisert, S., Johnson, K., Bolton, B., Teimouri Sangani, M., Rezai, H., Abdi, S., Pushpavathi, M., Hudock, D., Spears, S., & Aliveto, E. (2020). 吃音の態度を変えることの成功: 29の介入サンプルのレトロスペクティブ研究。 *Journal of Communication Disorders*, 84, 1-18.

# 成功の度合いが異なるサンプルを探る

## ◎ 29の介入サンプル

- 態度変化の成功の度合いによってサンプルは4つのカテゴリーに分類された(信念、自己反応およびOSSの変化)
  - とても成功した(VS):3つのうち3つでプラスの変化(5項目以上)
  - 成功した(S):3つのうち2つでプラスの変化
  - 僅かに成功した(MS):3つのうち1つでプラス変化
  - 不成功だった(U):3つのうち0でプラスの変化

## ◎ 12の統制群または信頼性非介入サンプル(C/R)



# 29のサンプルから得られた4つの介入カテゴリーにおけるOSSの平均値(介入前、介入後、変化)

## 介入

## 介入前 介入後 変化

大成功

+19

+35

+16

成功

+23

+31

+8

わずかに成功

+24

+28

+3

不成功

+10

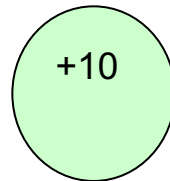
+10

+1

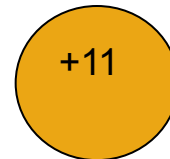
# 12の信頼性/対照サンプルの OSSの前後および変化の平均 値

- ◎ 試験-再現による信頼性試験または治療研究における対照サンプルの研究

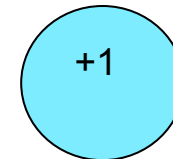
介入前



介入後



変化

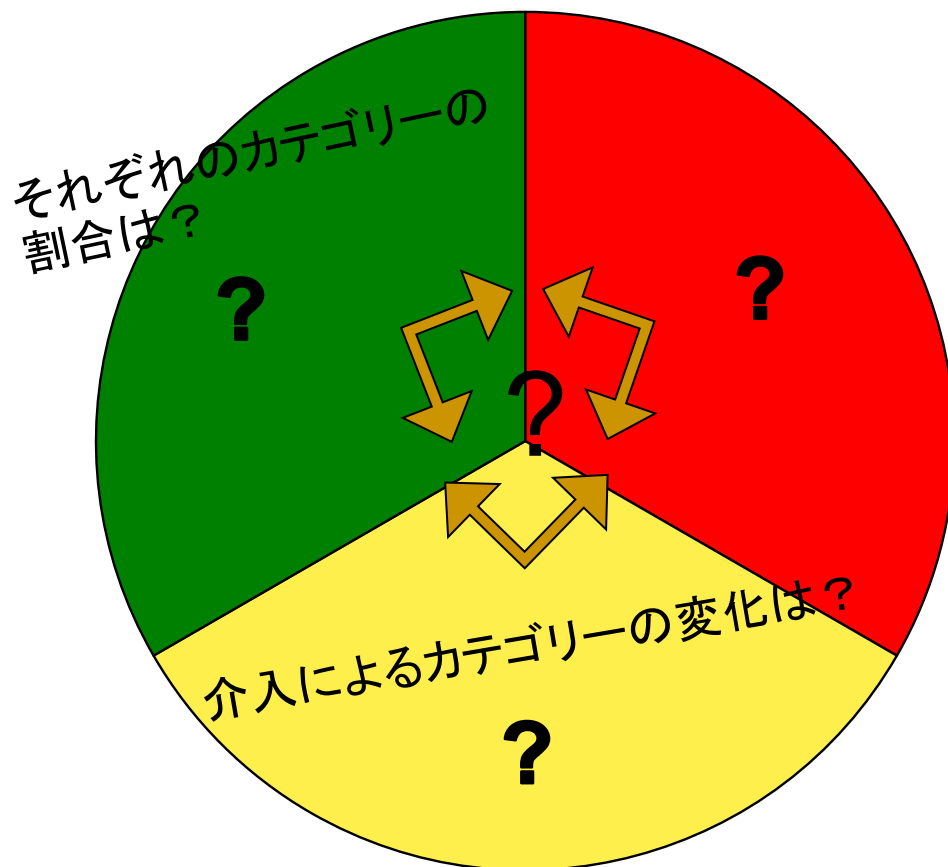


## 各サンプルにおける個人についてはどうだろうか？

- ◎ 普遍的な統計的仮定：サンプルにおける個々の回答者の変化のほとんどは、サンプルの平均の変化と同様である。
  - しかし、いくつかの予想外の相関関係を発見した。
- ◎ 各成功カテゴリにおいて、回答者個人をOSSの変化で並べ替えた(例 被験者33a: 前=15、後=22、変化=+7)
  - 肯定的な変化 (態度の改善が見られた):  $> +5$ 単位
  - 最小限の変化 (態度に変化がなかった): -5から+5
  - 否定的な変化 (態度が悪化した):  $< -5$ 単位

# 介入後の変化によって介入前を分類した場合

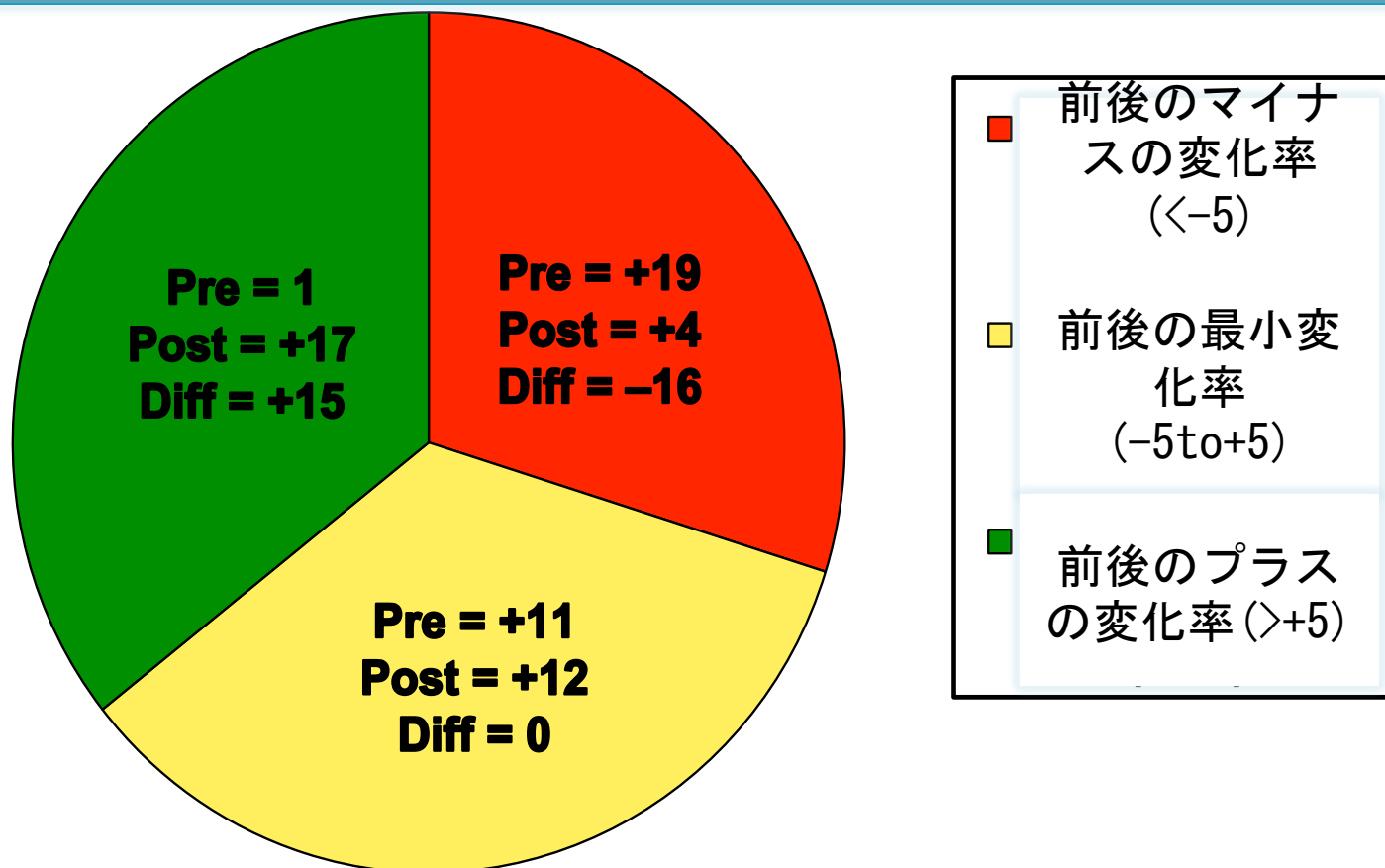
介入前のサンプルが、介入後の変化によって否定的(悪化)、最小限(変化なし)、肯定的(改善)に分類された場合の、サブグループのカテゴリー



- 介入前後の否定的な変化の割合 (<-5)
- 介入前後の「最小限の変化」の割合 (-5から+5)
- 介入前後の「肯定的な変化」の割合 (>+5)

# コントロールと信頼性 (不介入)

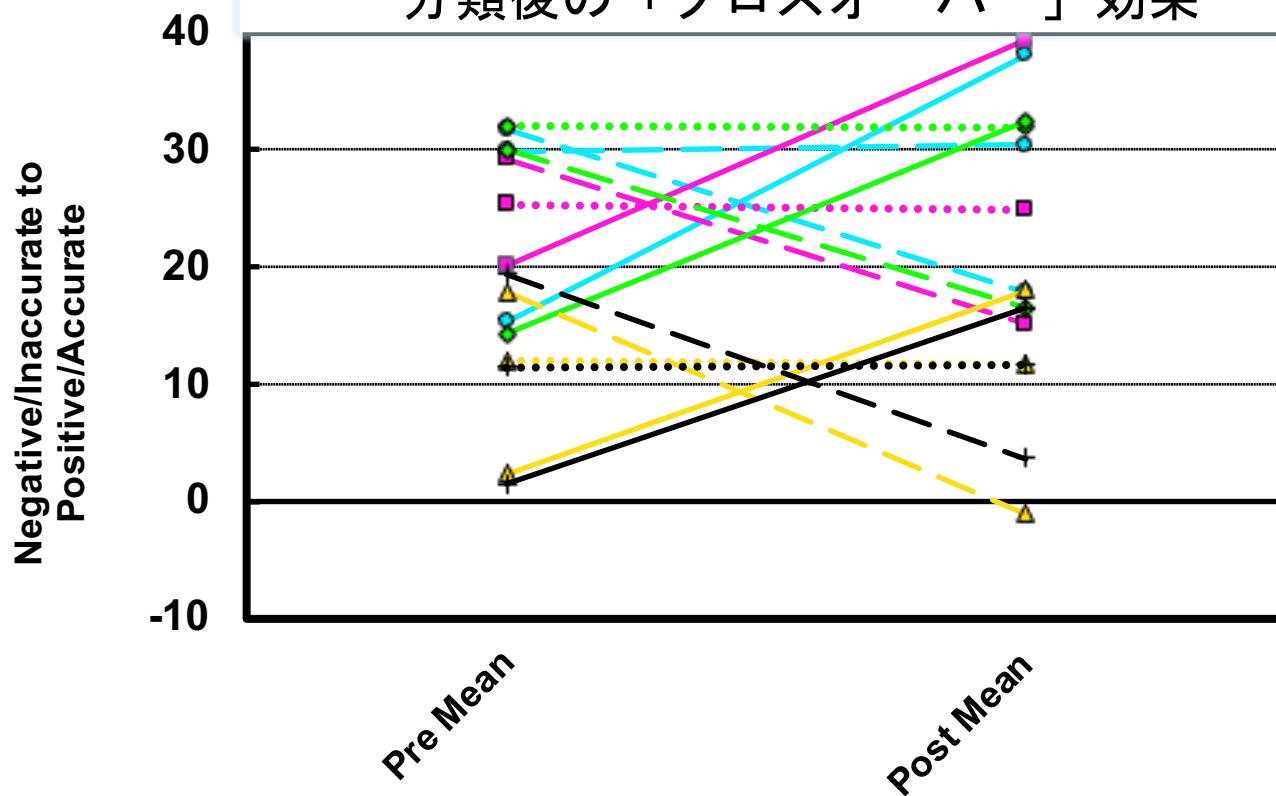
コントロール/信頼性サンプルにおけるOSSの  
事前、事後&変化（OSS実践前の仕分け）





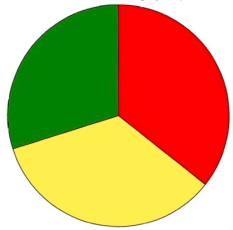
# 全5カテゴリーの「クロスオーバー」パターン

分類後の「クロスオーバー」効果

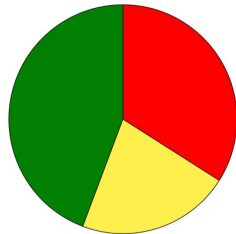


- |                |               |                |
|----------------|---------------|----------------|
| - VS Negative  | - VS Minimal  | - VS Positive  |
| - S Negative   | - S Minimal   | - S Positive   |
| - MS Negative  | - MS Minimal  | - MS Positive  |
| - U Negative   | - U Minimal   | - U Positive   |
| - C/R Negative | - C/R Minimal | - C/R Positive |

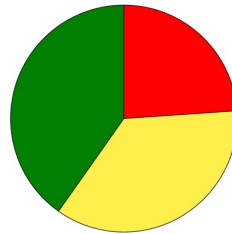
# カテゴリ別の「クロスオーバー」とプラス、最小とマイナスの変化の割合



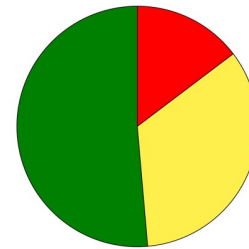
コントロール/信頼性 (CR)



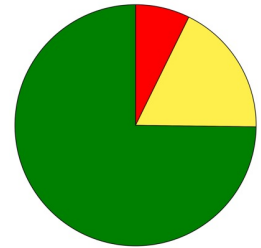
不成功 (U)



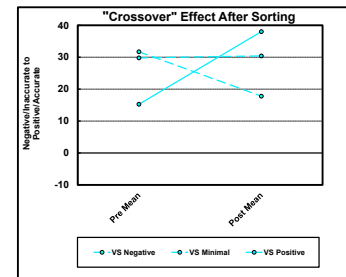
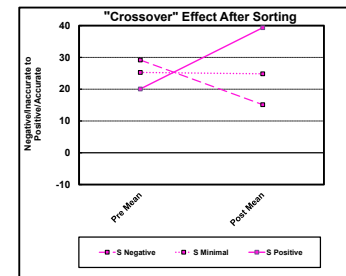
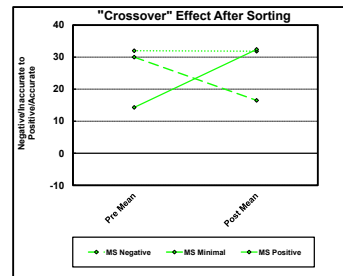
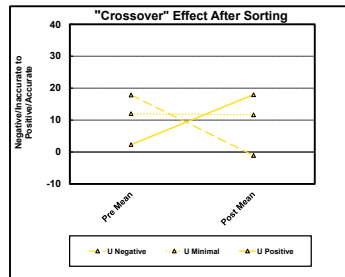
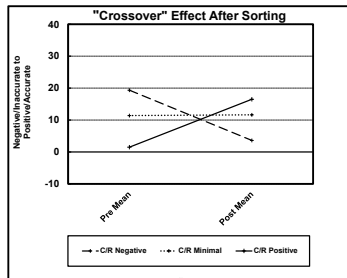
一部成功 (MS)



成功 (S)



大成功 (VS)



## 介入によって国民の態度を変える多様なプロフィール

- ◎ 回答者を改善した人、悪化した人、変化しなかった人で分類すると...
- 介入と非介入の全カテゴリーで見られた「クロスオーバー」効果(全サンプル)
  - 事前の最悪の態度→事後の最高の態度
  - 事前の最高の態度→事後の最悪の態度
  - 事前の中間態度→事後の中間態度(変化なし)
- 成功した介入と失敗した介入：割合の変化 – 個々の回答者の変化量ではない

# では、これは何を意味するのでしょうか？

- ◎ 吃音態度を改善するための成功した介入
  - 興味深く、感情に基づく&有益な介入
  - 聴衆が介入を受け入れ&変化に対してオープン
- ◎ 介入は人によって異なるべきである...
  - 態度が最も良い人(態度が悪化する可能性がある人)の 1/3 に、最初の印象は問題ないと納得させる。
  - 現在の一般的な人の態度はもっと前向きであるべきであるという事実を示して、中間態度を持つ(変えようとしなない) 1/3 を説得する。
  - 態度が最悪な1/3の人々(いずれにせよ良くなるであろう人々)には最初の印象は往々にして間違っているのだと安心させる。
- ◎ 各グループにどのように介入するかが課題
  - 多くの研究が必要である！
  - Weidner & St. Louis (2023) 介入を設計するためのガイドライン

Weidner, M. & St. Louis, K. O. (2023). Changing public attitudes toward stuttering. In H. Sønsterud, & K. Węsierska (Eds.) *Dialogue without barriers – A comprehensive speech therapy intervention in stuttering* (English Version). Chorzów, Poland: Agere Aude Foundation for Knowledge and Social Dialogue. <https://www.logolab.edu.pl/dialogue-without-barriers-a-comprehensive-approach-to-dealing-with-stuttering-english-version/>

## ◎ 今私たちができること

- すでにクライアントの反応と行動を測定する手段を提供しています (e.g., OASES)
    - クライアントの吃音環境を測定し、場合によっては改善する必要がある
  - 治療における態度環境を考慮する
  - サポートを提供する際、クライアント中心の原則を用いる
- これからの私たちにできること
- 約2/3の人の吃音態度は明らかな揺れがあることをから学ぶ
    -
  - この揺れは変化の可能性を意味する
  - 吃音環境が予後に及ぼす影響に関する証拠を作成する。
  - 公的介入プログラム後の吃音者の生活の質の改善を記録する。

# 年齢とともに変化する吃音態度 の環境

- ◎ 幼児期：両親、親戚、家族友人の態度
- ◎ 小学校・中学校：上記すべてに加え、学友、教師、コーチ
  - 学校：あざける人、からかう人、いじめる人
  - 学校：味方である親しい友人
- ◎ 高校：上記すべて＋先輩＋交際相手
- ◎ 大学：家族、新しい友人、同級生、教授、交際相手
  - 通常/からかいやいじめは減少する。
- ◎ 成人期：配偶者の家族、友人、職場の同僚、上司/スーパーバイザー、世間一般のあらゆる層



- ◎ 吃音環境評価（ASE）
- POSHA-Sの第2実験バージョンに酷似
- 個人差による微妙な変化を表すために、多くの項目は1～9のスケールで採点
- ASEの吃音総合スコアは、POSHA-Sと同様になる
- 吃音者家族のASEスコアは、統制群よりもよりポジティブである

# ASEの臨床使用

- ◎ 治療前、治療中、治療後に、吃音患者の両親、配偶者、兄弟、親しい友人にASEを実施
- 家族や友人の態度がクライアントに与える効果、またはその逆の効果を実証

# サポートに対するクライアントの認識の検討

◎ 一般に信じられていることや反応に対し、役に立つもの、役に立たないもの (ポジティブ vs ネガティブ) を判断するための、証拠に基づいた方法

◎ Personal Appraisal of Support for Stuttering につながった

- 複数の国と異なる言語翻訳で、同様の結果が得られた

- いくつかの国で差がでた

- バージョン

- 大人向け (PASS – Ad)

- 子供向け (PASS-Ch)

- 保護者向け (PASS-Par)



St. Louis, K. O., Irani, F., Gabel, R. M., Hughes, S., Langevin, M., Rodriguez, M., Scott, K. S., & Weidner, M. E. (2017). Evidence-based guidelines for being supportive of people who stutter in North America. *Journal of Fluency Disorders*, 53, 1-13.

St. Louis, K. O., Węsierska, K., Saad Merouwe, S., Melhem, N. A., Dezort, J., & Laciková, H. (2019). How should we interact with adults who stutter? Let's hear from them. In D. Tomaioli (Ed.). *Proceedings of the 3rd International Conference on Stuttering* (pp. 172-183). Trento, Italy: Erickson.

# PASS-Ad 平均的な結果を 選定

◎調査者の大多数は典型的な「すべきこと」と「すべきでないこと」に同意したが、全員が同意した訳ではない

- 60項目全てを、5段階評価（-2、-1、0、+1、+2）とした

◎ある吃音者に関する直接的な行動

- 最高：吃音の完治/軽減する方法を教えてほしい
- 中間：どのように助けられるか私に相談してほしい
- 最低：吃音に関して冗談を言う

◎ある吃音者に関する間接的な行動

- 最も協力的：例えば、言いたいことを言うまで待つほしい
- 中立：放っておく
- 最低の支援：話すときに吃音の「フリ」をする

◎過去のサポート

- 家族（最も勧めから順位）： 母親＞兄弟姉妹＞父親＞その他
- 学校（最も勧めから順位）： 教師＞クラスメート
- 学校（最も勧めから順位）： 大学＞高校＞中学校＞小学校

# クライアントの認識が意味するもの

## ◎ PASSはクライアントに提供可能

- 子供と両親、または大人
- クライアントの既往歴を取得するプロセスの一部
- 脱感作と練習の対象を特定する

## ◎ 一般向けに翻訳可能なポスターを作成

- 現在8ヶ国語に翻訳
- 日本語も追加される見通し





# 吃音者とどのように接すればよいか？

## ◎ポスターに記載された証拠に基づく知見の要約

- 私と積極的に関わって下さい：自然なアイコンタクトを心がけて下さい！
- 忍耐強く：考えたり話したりするのに十分な時間を下さい！
- あなたが私を受け入れてくれることが大切です：偏見を持たないように心がけ、共感  
と思いやりを！
- 私を、フレンドリーでユーモアのセンスを持つ一人の人間として  
サポートして下さい。そして、賞賛を！
- できるだけ気楽でいて下さい：自然に振る舞い、ありのままの自分で、  
私がどのように話すかではなく、私が何を言うかに集中して下さい！
- やりとりを修正することに柔軟になり、私が好む領域に敏感になって下さい！

A composite image featuring a sunset sky with a gradient from blue to orange. Three birds are in flight, their silhouettes arranged to form a smiling face. The top two birds serve as eyes, and the bottom bird forms the mouth. In the foreground, the dark silhouettes of trees are visible.

質問?  
感想?

POSHAs, ASE, PASS: [ken.stlouis@mail.wvu.edu](mailto:ken.stlouis@mail.wvu.edu)  
InterACT Program: [m.e.weidner@gmail.com](mailto:m.e.weidner@gmail.com)  
Support Poster: [katarzyna.wesierska@us.edu.pl](mailto:katarzyna.wesierska@us.edu.pl)

本資料は、St. Louis先生が作成された原版に基づき、筑波大学の学生が日本語訳を担当しました。POSHAの研究に取り組んでいる陳俞安氏がとりまとめたものを、澤井雪乃氏（Master of Speech Pathology, College of Nursing and Health Sciences, Flinders University所属）が監修し、作成しました。

### 【筑波大学の協力者】

- ◎ 筑波大学大学院 人間総合科学研究群 障害科学学位プログラム  
博士後期課程：黄金峰 陳俞安 青木瑞樹 何橙棋  
Badmaavanchig Zolzaya
- ◎ 筑波大学大学院 人間総合科学研究群 障害科学学位プログラム  
博士前期課程：浅子綾美 陳宣伶
- ◎ 筑波大学人間学群障害科学類：小山田琴美 橋口拳 松本愛子  
村山翔野 茂呂公比古 田中京花
- ◎ 筑波大学医学群医学類：遠藤優